



人類に
奉仕する
ロータリー

藤沢東ロータリークラブ 週報

2016~2017 Rotary Club of Fujisawa East



- 会長/石田能治 幹事/林葉之 例会/毎週火曜日 12:30~13:30
- 事務所/藤沢市南藤沢 4-2 吉田ビル 5階 TEL 0466-25-4000 FAX 0466-26-9292
- 例会場/湘南クリスタルホテル藤沢市南藤沢 14-1 TEL0466-28-2111 FAX0466-28-2126

ROTARY SERVING HUMANITY

第 1935 回例会 2016 年 7 月 12 日 (火) (天候) 晴れ No.2

点鐘 クリスタルホテル 4F 「パルティール」

開会

ロータリーソング「奉仕の理想」

ゲスト・スピーカー・ビジター紹介

ゲスト・スピーカー

スポーツライター 飯山晃生 様

ビジター なし

バナー交換 なし

会食・懇談

-会長報告- 7/5 理事会報告

- ・8/22 (月) 藤沢 RC との合同移動例会 江の島花火大会鑑賞を行います。
- ・事務局の募集要項ができました。勤務形態は 3 日/週。詳細は幹事まで。
- ・事務局の場所が決定しました。場所は暫定で藤沢市南藤沢 4-2 吉田ビル 5 階 2 年間の定期借家契約で次の候補地がありましたら、会長・幹事までご連絡願います。
- ・今年度の出席免除者が決定しました。石神会員、片岡会員、田中繁会員、本田会員 洞口会員、横田会員

-表彰&特別挨拶- なし

-幹事報告-

- ・7/30 遊行の盆に出す第三グループの蓮の練習を 7/5 から相澤ビルで行っております。希望の方は幹事まで連絡下さい。また祭り当日、参加されなくても時間がある方はぜひ見に来て頂ければ、と思います。石田会長はプラカードを持って先導役です。
- ・7/16 (土) 13:00~ロータリー財団セミナーをアイクロスにて行います。当クラブから会長、幹事、吉田成江会員、竹澤会員が地区補助金資格取得の為に出席します。
- ・2780 地区のホームページ作成の入札が行われます。御興味ある方は幹事まで。

出席報告

例会月日	総員 (名)	出席 (名)	欠席 (名)	出席率 (%)	メークアップ (名)	修正出席率
6月28日	35 (32)	24	8	.	1	.
7月12日	35 (30)	18	11	60.00		

- ・今年度の青少年交換留学生の募集が始まりました。12月28日〆切。推薦書確認書等あります。
- ・2780 地区公共イメージ活動 7/31 (日) END POLIO NOW キャンペーン 10:00~10:40 サンパール広場にて行います。当クラブが幹事クラブであり、お手伝いできる方は幹事までご連絡をお願いします。
- ・7/16 (土) 米山学友クリーンキャンペーンが江の島近辺で行われます。御興味ある方は幹事迄。
- ・7/24 (日) 15:00 ローターアクト地区協議会が小田原市民教育センターにて行われます。
- ・日章旗と ROTARY 旗が新しくなりました。

-委員会報告-

- ・出席報告 出席委員会
- ・スマイル報告 スマイル委員会
- ・親睦委員会より、先週塩釜東 RC から 50 周年記念式典の男声合唱団がいまだに好評だということでそのお礼としてどら焼きが届きました。例会後に届いたため、第 3 グループ会長幹事会で配布させて頂きましたことを報告致します。

-会員&配偶者誕生日-

会員誕生日 配偶者誕生日 なし

-卓話-

「野村克也監督の人間学」 飯山晃生 様

点鐘
閉会

新しい日章旗と ROTARY 旗



-スマイル-



【石田能治会長】

飯山様。本日の卓話楽しみにして居ります。

【林葉之幹事】

飯山様。本日の卓話宜しくお願い致します。前回ロータリー旗、日章旗を忘れてしまい申し訳ありませんでした。

【吉田新一会員】

飯山様。本日の卓話宜しく申し上げます。

-卓話-

「野村克也監督の人間学」 飯山晃生 様



プロ野球に携わっていた時のエピソードをお話ししたいと思います。

まず、私のプロ野球との繋がりをお話しします。私は丁度東京オリンピックの前年の生まれ（1963年）で、私の父が毎日オリオンズ（現在の千葉ロッテマリーンズ）の球団創設以来のファンでした。その父の影響があって、私が生まれた時代は東京球場時代でしたが、応援団の方と仲良くなって、自然と私はロッテオリオンズ一筋で育ってきました。中学生になると一人で球場に応援するようになりました。私が中学3年生のときに、川崎球場にロッテオリオンズとして金田監督体制でフランチャイズ化しました。その後学生を卒業後、一時就職したんですが、当時の応援団の仲間が株式会社ロッテに就職していてロッテの球団職員になっていました。

たまたま1999年に藤沢でホームページ作成の仕事をしていた際に、その仲間と呼ばれてロッテもホームページ作るのを力を貸してくれとのこ

とで参画することになりました。翌年から全試合帯同するよう依頼され、藤沢から通えないため2000年に千葉へ転居しました。その後、おとし（2014年）にプロ野球の仕事を終え、藤沢に帰ってきました。

実は野村監督とは因縁がありまして、私が応援団をしている時に、野村さんは南海ホークスでプレイングマネージャー（監督兼選手）をしていました。緑のユニホームを着てプレーしていました。最後の年が42歳で頑張っておられましたが、そのオフに南海を解任されて「生涯一捕手」ということでロッテに来られました。私が高校生で応援団をやっているときに「42、42・・・」とスタンドからヤジと飛ばしていました。翌年野村さんがロッテへ来られて、ロッカーでお会いした時に私のことを覚えていて、「オイ、お前今年もオレを野次るのか？」とイヤミを言われました（笑）

その時に「今いくつだ？ええか。俺は42歳の厄年で苦労したんや。厄年って覚えておけ。」と言われたことを覚えています。その後、野村さんはロッテから西武へ行き、引退されました。野村さんは引退後、ヤクルトで監督やられたり、阪神、社会人のシダックス、また楽天などで監督をやられました。私の方は、1999年からロッテで仕事をしていて、2005年にいろいろと球団方針が変わるために契約が終了し、2006年に縁がありまして楽天イーグルスから声がかかってお世話になりました。その時、楽天の監督となった野村監督と再会しました。

野村監督は忘れていたんですが、いろいろ話している内に思い出してくれました。その時私は43歳の時でしたので前年のロッテとの契約終了は丁度42歳のときで、これからどうしようかという時でした。このことを野村監督に話すと「やっぱり厄年やったやろ」とニヤニヤ話していました。

2006年野村監督が楽天の監督になりましたが、私は球団のオフィシャルサイト担当だったので、あまり球団色を出さないように新聞記者と接していました。新聞記者はパ・リーグなので新人が多く、記者達は野村監督の現役時代を知らない。そのため、過去を良く知っている私は話をさせてもらいました。とにかく、監督は話が長い。

試合の日は午後2時に選手が球場にやってきて練習をする、その後3時に監督がやって来て挨拶した後、バッティング練習を見たりするのに、野村監督はベンチへ座って話を始める。試合が終わった帰り際に試合後のコメントを取るために記者が囲み取材を行う。普通の監督は

1, 2 分で終わるところ野村監督はそこでも長い。普通に 15 分から 20 分、長いと 30 分から 40 分。試合は 10 時くらいに終わって、新聞記者は×切時間があるのでイライラして聞いていました（笑）。

私が特に野村監督の傍で長いこと接していた中で心に残っている野村監督の言葉を紹介したいと思います。

一番印象に残っているのが、2006 年に監督就任されて 2 月 1 日がキャンプインした時。

初めてインタビューをした時に、30 分のところ 1 時間半かかったんですけど、まず監督が言ったのは「オイ！オレは楽天の選手を知らないんだ。メンバー表を見て知っているのは 5 人だけだった。どう思う？」と言われた。それは楽天球団のできる経緯が関与していたのです。近鉄球団がなくなって、阪急と近鉄合同の選手 30 人が先に決まり、その次にオリックスの選手が 30 人決まりました。つまり近鉄とオリックスの 1 軍半の選手が中心となって始まった。その辺で非常に気にしていました。球団初年度は田尾監督の下 100 敗近くした後だった為。

野村監督はキャンプイン初日の夜に選手全員を集めてミーティングをしました。その時の第 1 声が「人間とは？」から始めたそうです。

「人間とはなんぞや？」まずは選手の間人形成や。つまり、どんなに野球の技術が長けていても、人間としての基本的な部分がキチンとできていないと、絶対に大成しない。特に、楽天の選手は若い選手を中心にやっていかないといけないので、そこから始めないとどうしようもないんだ、ということでした。

実はヤクルトもそうだったようです。プロ野球はヤンチャな人間が多いようです。そのため人間形成を植え付けなければいけない、と野村監督は常々考えていたようです。

先日も元西武の清原さんがあのような形で逮捕されました。現役時代から他人のアドバイスを聞いてなかったようです。野村監督の指導方針は野球を止めたあともきちっと社会で生きていけるようにしたかったようです。

楽天時代の教えはやっぱり凄いと思ったのは、メジャーへ行った田中将大選手ですね。人間形成を徹底的に教え込まれたので、メディアの人達との付き合いもきちっと行う。それからキャッチャーの嶋選手ですね。2012 年に東日本震災後で楽天が日本一になりました。その際にお祝いのメールを選手何人かに送りましたが、唯一、嶋選手だけが夜中の 1, 2 時にきちっとした文章でメールを返信してきました。他

の選手は翌日絵文字で返信があったのと違って。「お世話になりました。ありがとうございました。これから飲みに行きます。・・・」とあり、凄いな、こういうところから人間性の差が出てくるのかな？とつくづく感じました。

もう一つの野村監督の成功事例を上げますと「山崎武司」選手ですね。中日→オリックスで自由契約になっていたところ楽天に拾われた格好で入団しました。打撃タイプは 1, 2, 3 で打つという感じで来た球をとにかく打つタイプでした。野村監督と出会って、「考えること」を植え付けられました。相手ピッチャーがどういう風に考えて攻めてくるか？例えば、最初インコースに速い球を投げられて、次はアウトコースへ変化球で逃げられる。等のようにいろいろ考えて、投球を読むようになったんですね。それで 40 歳過ぎてからのホームラン王にも繋がりました。山崎さんも言っていました、「本当に人間観が変わりました。それと共に野球がとにかく楽しくなった。前だったらベンチにいるときでも漠然と見ていたのを、今は先の展開をよんで楽しくてしょうがないんだ」と言っていたときがありました。

そういうことでいろいろな球団において選手達の間人形成に努めていたのが野村監督の特徴だと思います。

二つ目に野村監督を見ていて思うのはとにかく考える人だということです。もの凄く考えています。どこでいつ考えているのか、と思うくらいです。良く言っていたのが「試合に対して準備をしなければいけない。準備をして試合で実践して、その後反省をして、その次に準備に生かしてまた試合に臨む、そのサイクルの連続でした。

ただ試合に出るだけだダメだ。例えばベンチにいる時でも自分は今日はどういうときに出番があるか、またそのためにはベンチにいる時に何をすべきかを考える。例えば、8 回に代走で出る時でも、試合の展開、ながれを見て、誰がピッチャーで投げているのかを先によんで準備しなさい、との教えでした。

今西武にいる渡辺選手が楽天にいる時に 9 回に 1 塁に出た際に、リードが普段より半歩大きかった。ピッチャーがそれを気になって何度もけん制球を投げて調子をかく乱されて最終的に次のバッター達にヒットを打たれてそれが決勝点になって勝った時がありました。渡辺選手に試合後聞いた。

「冒険じゃないの？」渡辺選手は「盗塁するつもりはありませんでした。常にけん制球に備えて塁に帰ることを考えていました。ただピッチャーを揺さぶることだけを考えていました。」との事。その時にも野村監督の教えが効いていると感じま

した。

それから野村監督にはヤクルト時代から「再生工場」と言われていました。野村監督曰く「ID野球？再生工場？イヤイヤ、ただ単に準備の大切さを言っているだけなんだ。それができるかできないかによって結果が違ってくるんだよ。」との事でした。本当にこれは野球だけではなくて、ビジネスの世界にもあてはまることだな、と強く感じました。

それから、野村監督が選手を評価するときに、3つの段階でよく選手のことを語っていました。

ひとつは、「無視」、それから「称賛」、それと「非難」の3段階で選手を見ているとの事。

「無視」というのは相手にしないこと。「称賛」は「アイツは凄い」と言って褒める。「非難」は「アイツは駄目だ」という事です。要は、その選手のことを悪く言うということは一流として認めていることです。逆に、自分のコメントの中で名前が出てこない選手は3流のまま等という事だと言っていました。

田中将大「マー君」は、1年目から1軍で実績を残して行ってました。彼は野村監督からずっと「称賛」されていたので、その点で彼の自信に繋がっていったと思います。対照的に岩隈久志（マリナーズ）選手には凄く「非難」していました。裏を返すと、「無視、称賛、非難」の3段階でみても、力的には当時の楽天のエースとして本当に認められた上での発言でした。

選手自身も「無視」されると注目して欲しいために、がむしゃらにやる。「称賛」すると選手の自尊心を擽ってもっともっとヤル気になる。ある程度上にいったときに、「非難」すると見返してやる気持ちで火がつく。こういうことも狙っていたんだ、との言葉でした。

記者会見時の有名な言葉で「マー君、神の子、不思議な子」があります。とにかく、田中選手が投げると打線が打つ。打線が沈黙するときは田中選手が相手チームを抑えるという凄い好循環の状態でした。試合の中でここで抑えるというときに抑えれば勝ちに繋がるし、ここで踏ん張れきれないとダメだなという時に打たれると負けに繋がる。田中選手の場合はそういう場面できちっちと仕事できていた、と思います。そういうことから「不思議な運を持っている」ということからあの言葉が生まれました。「マー君、神の子、不思議な子」という時に横にいたのは僕でした。

その言葉のあとの第1声が「どや、ええ言葉やろ！」と言われたので、私が「いい言葉ですね。いつ考えたんですか？」聞いたら、野村監督「試合中、ずっと考えてたんや！」との事でした（笑）

実は南海時代に、巨人が9連覇した当時、

「王、長嶋はアサガオとひまわり、自分は月見草や」と言っていました。とにかくパ・リーグで成績を残しても注目されなかった。

そのために、野村監督の考えには「とにかくマスコミとうまく付き合わないといけない」というのがあるんです。ヤクルト時代はまだセ・リーグなのでそうでもなかったんですが、楽天時代はとにかくマスコミとうまく付き合うというのを重視していました。

選手に文句をいうのにも新聞を通して言う。

会見の中でも普段の話もそうなんですが、やっぱり自分が苦労した話を逆手にとって監督としてチームに何ができるかを常に考えていたようです。

たまに2人きりになった時に、昔話をするときがありました。「監督は緑が一番しっくりくる」と言うと、野村監督ニヤニヤ笑っていました。

いろいろあって南海をお辞めになりましたが、やはり、長くプレーしていたチームなので、愛着があるんだな、と感じました。

阪神時代も特に叩かれた思いが残っているようです。阪神時代に若い選手を抜擢して育てても人間形成がうまくできなくて結果を残せなかった。忸怩たる思いがあるようです。

それにしても野村監督は、試合の中でポイントになる部分を上手くつかんで、選手のレベルを把握して、上手くコントロールするということが長けている方だと思います。

普通の企業のリーダーシップにも繋がることだと思いますが、野村監督は「再生工場とか言われるが『私は気づかせ屋だ』」と言っていました。選手が自分の立ち位置を把握して、どこが足りないのかを分からせるのが監督の役目だと仰っていました。・・・いろいろ話しましたが、本当に人生経験豊富で自分にとって大きなおつきあいのある存在です。

拙い話で恐縮ですが、ご清聴ありがとうございました。

